

## 子ども・子育て対策

はやし せいじ  
林 清治

民主党・市民連合



**問**現在、第3次札幌新まちづくり計画に基づき、2014年度末までに定員4,000人増に向けて保育所整備を進めていますが、待機児童数は依然として増加傾向が続いています。景気回復が見込めない先行き不透明な状況から、今後、想定以上に待機児童が増加する可能性があるかと懸念しています。対策として、新まちづくり計画の見直し、補正予算による対応など、今後の取り組みについて伺います。

**答**年度内に開設予定となる施設もあり、年度途中の利用希望者も考慮した柔軟な対応を図っていくとともに、希望する保育サービスを確実に受けられるよう、積極的に待機児童対策を進めていきたいと考えています。

**問**国で審議されている、子ども・子育て新システムは、全ての子どもの良質な成育環境を保障することにより、子どもや子育て家庭を社会全体で支援することを目的としています。実施に当たっては、市民の理解と協力が不可欠であり、十分な周知と準備期間が必要です。新システムを円滑に進めていくために、今後どのように対応していくのですか。

**答**本市はこれまで、新システムの円滑な実施に向けた要請や提言を国に対して行ってきました。現在、制度導入に向けて、国で審議されていることから、今後の動向を注視しながら、市民の混乱を招かないよう、的確に対応していきたいと考えています。

## 医療と介護の連携強化

あしはら すずむ  
芦原 進

公明党



**問**老後の生活を尊厳ある豊かなものにするためには、医療、介護、住まい、生活支援サービスが連携をし、包括的な支援を行う地域包括ケアの推進が重要であります。特に重要なのが医療と介護の連携強化で、積極的に支援していくべきだと考えますが、いかがですか。

**答**医療と介護に関わる方々の相互理解の促進と情報の共有を図ることで、顔の見える関係づくりを積極的に進めていきたいと考えています。

**問**認知症高齢者とその家族の双方が安心できる地域包括ケアの実践には、認知症ケアに知識と経験を有するグループホームを活用することが効果的だと考えています。グループホームの今後の整備について、介護サービスの質の向上を含め、どのような視点で進めていきますか。

**答**手厚い介護が必要な利用者であっても、可能な限り、その人らしく安心して暮らし続けられる質の高いグループホームの整備を、重点的に進めていきたいと考えています。

# 市議会の動き

5月30日に招集された第2回定例会の中から、6月5日、6日、7日の代表質問の主な内容、最終日に可決された議案などについてお知らせします。

なお、代表質問については、ホームページの録画中継でもご覧になれます。

## 教育行政の在り方

ばん よしたか  
伴 良隆

自民党・市民会議



**問**本市の独自テスト、札幌市学習実現状況調査は、抽出調査であり、3年に1度です。全国の子どもと自分自身を比較する客観性が著しく不足しています。そのような中で、子どもたちの習熟度を向上させるための取り組みを、各学校、他の自治体と比較することは、子どもや保護者、教員にとってもさまざまな課題点の抽出として欠かせないものです。

各学校の間で学力の差があるのが現状であり、その差を埋めることが必要ですが、どのように考えていますか。

**答**一人一人の子どもに日常的にきめ細やかな指導と評価を進めることによって、学ぶ力を身に付けさせることが大切であると認識しています。そのような取り組みを通して、それぞれの学校の実践力を高め、本市全体の学力の向上に努めていきたいと考えています。

**問**基礎学力、基礎体力はもとより、スポーツ、芸術など、本市の学校教育として目指すべき具体的な数値目標を設け、目標に向けて全力で取り組むべきだと考えていますが、いかがですか。

**答**一人一人の子どもに応じた適切な教育を進め、生涯にわたって自ら学ぶ子どもの育成に努めており、学校で好きな授業があるという子どもの割合について、数値目標を掲げるなどしています。今後も、学校教育の充実に向けた適切な目標の在り方について検討していきたいと考えています。